

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	17	実施計画番号	92
事務事業名	地域防犯活動への支援		
個別事業名		事業開始年度	-
担当課名	生活環境課	事務の種類	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	地域住民が犯罪に巻き込まれないよう、自ら行う防犯パトロールや啓発活動に対し支援する。		
事務事業の目的	犯罪や事故のない明るいまちづくりを進める。		
実施状況	地域と連携して防犯活動を実施している団体に、防犯事業の委託及び補助金を交付している。		

### 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	1,158	1,158	1,155
うち一般財源	1,158	1,158	1,155
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

### 【指標】

活動指標	活動指標名①	防犯街頭活動数			
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
		回数	6	6	6
	活動指標名②				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
成果指標	成果指標名①	犯罪件数(前年度以下を目標とする)			
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度
		件数	目標値		
			実績値	593	473
			達成度(%)		
	成果指標名②				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	17
計画No	92

## 【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b>
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		犯罪を抑止するには、警察行政だけでなく、地域住民が一体となって活動することが必要である。このため、防犯団体等が積極的に活動する必要がある。
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 <b>0 / 6</b>
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		防犯団体等の活動は、犯罪をしようとする機会の抑止と、地域住民の防犯意識を高めることによる犯罪抑止力を高める効果がある。
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b>
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		防犯事業は、防犯活動の知識が豊富な防犯協会へ委託及び補助していることから、事業効率は良い。
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b>
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		広く街頭で活動することで、多くの市民へ防犯意識の啓発ができています。
			現在の適性	20 / 20	改善の余地 <b>0 / 20</b>	

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

現状のまま継続

### 方向性の理由

防犯団体等の活動を継続的に行うことにより、犯罪の未然防止に役立っている。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

今後も、街頭啓発、イベント等でのパトロール、防犯行事を実施し、防犯意識の啓発を図る。